

2、子宮頸がんワクチン（ヒトパピローマウイルスワクチン）について

（定期予防接種対象者のヒトパピローマウイルスワクチン接種数と割合について）

まず冒頭に、我が市における子宮頸がんワクチンの定期予防接種対象年齢の12歳から16歳の女子への広報内容及びワクチン接種された延べ人数。この延べ人数と申しますのは、このワクチン、3度打たなければなりませんので、延べ人数。そして、実際に接種された人数ですね、延べ人数から割り出すのかもしれないけれども。そして、対象人口における割合、これをお答えください。

また、子宮頸がん予防ワクチン接種協力機関でなされる効果及び副反応に関する説明の内容、そしてその説明を聞き、接種を取りやめた方の人数をお教えください。

（安井修福祉保健部長）

吹田市における子宮頸がんワクチンの接種対象者への広報内容についてでございますが、個別案内する予診票のつづりの中に、子宮頸がんとヒトパピローマウイルスについての説明、ワクチン接種の効果及び副反応等について記載しております。

また、子宮頸がん予防ワクチンの本市における接種状況についてでございますが、平成23年（2011年）2月から平成25年（2013年）3月までの対象者数は8,537人、延べ接種人数は1万5,736人、実人数は5,713人、接種率は66.9%でございます。

次に、ワクチン接種医師からの効果及び副反応に関する説明内容についてでございますが、接種前に、ワクチンの効果、接種上の注意点及び副反応等について説明していただいております。なお、説明を聞いた上で接種を取りやめた方の人数については把握しておりません。

以上でございます。

（ワクチン説明書類に記載する内容の根拠について）

広報の内容ですけれども、個別案内する予診票のつづりの中に、子宮頸がんとヒトパピローマウイルスについての説明、あるいは副反応等について記載しているとのことでしたが、その中学1年生に対する予診票の個別送付及び説明書類等の内容等の市民に対する告知について、何か厚生労働省から通達等の指導があるのでしょうか。

安井修福祉保健部長

問診票及び添付の説明書につきましては、厚生労働省通知の定期接種実施要領に基づき、本市が独自に作成しております。

以上でございます。

(ワクチンの効果について)

ありがとうございます。

このワクチンの説明については、吹田市は独自で書かれているということなので、このワクチンの内容についてももちろん調査されていると思いますので、次に、ワクチンの効果について伺ってまいります。

そもそもこの子宮頸がんワクチンと称されているワクチンですが、子宮頸がんの罹患を予防するものなののでしょうか、お答えください。

安井修福祉保健部長

子宮頸がんワクチンの予防効果についてでございますが、厚生科学審議会の専門部会による報告書によると、子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルス持続感染を予防する効果及びがんに移行する前段階の病変の発生を予防する効果が確認されているとのことでございます。

以上でございます。

(ワクチンの効果について)

ありがとうございます。

これは、子宮頸がんに直接効くというわけではなくて、子宮頸がんの原因とされるヒトパピローマウイルスの感染を予防するとのことですが、そのヒトパピローマウイルスというのは100種類以上存在しているわけです。ただ、その中で、特に子宮頸がんを引き起こす可能性の高いハイリスク型と呼ばれるものが15種類あるとのこと。その100種類あるものについては、一般女性のおよそ8割ですかね、が罹患しているということなので、そんなに怖いウイルスではないんですけど、その15種類が特に怖いとのこと。

そして、現在ワクチンはサーバリックスとガーダシルの2種が認可されておりますが、特に接種件数の多いサーバリックスに絞って議論を進めたいと思います。ガーダシルについてもサーバリックスに準じると考えていただければ結構と思います。

さて、このサーバリックスというワクチンでは、高リスクの15種類全てのヒトパピローマウイルスの感染を防止することが可能なのでしょうか、お答えください。

安井修福祉保健部長

サーバリックスの予防効果についてですが、厚生科学審議会の専門部会の報告によりますと、未感染者に対しては、極めて効率的に16型及び18型のヒトパピローマウイルスの持続感染を防ぎ、子宮頸部前がん病変の発生を減少させ得ると報告されております。しかし、それ以外のヒトパピローマウイルスに起因する子宮頸がんの長期予防効果は確立されていないとのことでございます。

以上でございます。